



この町で、この地で笑って老いたい ~そのために今すべきこと~

【まち協だより】

令和7年4月号

電話(FAX) 82-0933

発行:山上まちづくりの会事務局

【山上まちづくりの会 総会】

第20回山上まちづくりの会総会が4月11日に開催され、予算・決算・来年度の事業計画が承認されました。後日総会資料を回覧しますのでご覧ください。また、山上まちづくりの会では4月以降も随時部員さんを募集します。皆様のご参加をお待ちしています。



●新たに取り組む予定の事業

「山上まち協設立20周年事業」・・・これまで活動した部員役員の懇親会。

「しめ縄づくり教室」・・・11月~12月にしめ縄作り教室を開催。

「山上カフェ」・・・どなたでも気軽に休んでもらえ、おしゃべりができる場所を作ります。

毎週金曜 11時~15時まで、セルフサービスで飲物と茶菓子は無料です。

「栗饅頭作り教室」・・・毎月、まんじゅう教室を開催。参加希望の方はご連絡ください。

「山上盆踊り教室」・・・夏の伝統文化を次世代に伝えていく事業。現在企画中です。

【後期高齢者 お祝い訪問がスタートします】

令和7年度から誕生日のお祝い訪問、栗饅頭プレゼントを始めます。誕生日の月に(年12回に分けて)お届けします。日時は決まっていますが、だいたい水曜日にお届けする予定です。今年の集落支援員さんに木山洋子さん(茶屋)山本真也さん(霞)柴田笑里さん(生山)が就任しました。支援員の皆さんにも栗饅頭を焼いて届けてもらいますのでよろしくお願いいたします。

【日南町卓球大会の報告】



令和6年度の最後のスポーツ事業「日南町スポーツ協会卓球大会」が令和7年3月16日(日)に町体育館で開催されました。団体戦 山上チーム 2位。一般男子個人戦優勝 吉川春樹さん。一般女子個人戦 3位 山崎良美さん。全員で頑張っておられました。ソフトバレー・ソフトテニス・バドミントン・卓球の4種目の町スポーツ大会は冬場に開催されます。皆様のご参加をお待ちしています。グラウンドゴルフは毎月練習会や大会をしています。初めての方も丁寧に指導してもらえます。健康づくりにいかがですか。

【今後の予定】

●合同部会・役員運営委員会 5月30日(金) 18時30分~

●合同環境作業 6月8日(日)8時30分~

●ホテル観賞地草刈り 6月15日(日)8時30分~(地域振部)

【報告】 懸日谷の村上正広さんからご寄付をいただきました。地域の為に使わせていただきます。

文部大臣選奨を受ける せんししょう

15

広島から帰って、村の教育のために夜も昼もなくただ一筋に取り組んでから、五年の年月がたちました。世の中は明治から大正へとかわっていききました。

昔は二月二十一日は紀元節といって、日本の国の誕生日として祝日になっていました。今の建国記念の日です。このよい日に、岩雄は「文部大臣選奨」という、教育者としての最高の賞を受けることになりました。大正三年、数え年の四十一歳の時のことです。表彰状は県庁で知事さんから手渡されることになりました。

この頃になると、かなり洋服がゆきわたって、お祝いの時など燕尾服えんびふくと呼ばれる今のモーニングコートを着るようになっていきました。岩雄はモーニングコートを持っていまませんでした。なんとかして作らなければと心配するマス(岩雄の妻)を押し止めて、岩雄は、先祖代々の紋つきの着物に、広島高等師範学校から帰ってくる時にもらった仙台平せんたいひらの袴はかまをつけて出かけていきました。

ちょうど折から雪が降って、袴の下にはゴム長靴といういで立ちでしたので、県庁の玄

関前での記念写真は、モーニングコートの知事、フロックコートの内務部長、金モール服の警察部長の中になんともいえない格好で並ぶことになりました。しかし、岩雄はもともと服装などいっこうに気にしませんでした。

そのあとで、母校である師範学校で記念講演会がありました。教育者として歩んできた半生の道と、信念を、やや場違いの感じのする和服姿で熱心に話すと、また雪の中を山上へと帰ってきました。家に帰りつくと、両親と妻のマスの前にきちんと座って、「私が今日あるのは、すべて、おじいさんをはじめ、皆さんのおかげです。この際、改めてお礼をいいます。」と頭をさげました。両親は、「よくもまあ、あの岩雄が。」と、表彰を受けて、さらにひとまわり大きくなって見える岩雄を、ぐずだったころの少年時代を思い出して、目を細めるのでした。

後になって、県庁玄関前での記念写真の時の服装のことが、どこからともなく山上小学校の卒業生の耳に入り、村では岩雄の受賞のお祝いの会よりも、フロックコートを贈ることにしようと相談ができました。そして、山高帽、フロックコート、式靴、それに金時計までそえて贈呈を受けることになりました。岩雄はこのお礼に、おくられた式服を身につけた立ち姿を写真にとり、

あら恥はずかし若木痛いためし藤老木ふじろうぼくの一句をそえて、絵葉書にして送っています。

若木とは教え子たち、藤老木とは自分のこと。教え子たちに式服の心配をかけたことをすまないと思つて作った句です。服装など少しも気にならない岩雄も、教え子たちに気をつかわせたことについては、心が痛んだのでしよう。

